

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

# よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.56 2012.4.1

菊水福祉のまち推進センター運営委員会  
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10  
電話 011-887-7006 FAX011-811-3831  
URL <http://kikusui-net.jp>



## 福まち通信



野幌原始林のミズバショウ

## 白石区福まち共通研修会開催さる

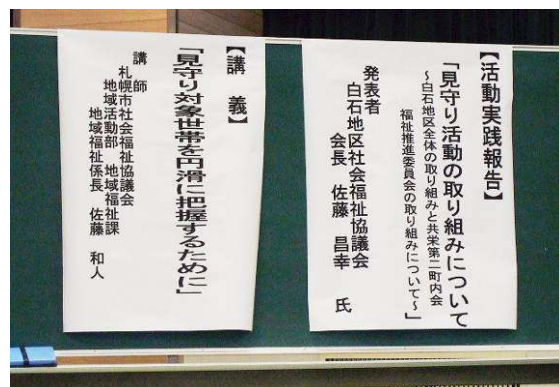


市社協佐藤和人氏

2月28日(火)午前10時から白石区民センターの区民ホールにおいて、白石区社会福祉協議会主催による標記研修会が開催されました。各地区から180名を超える福まち関係者が参加し、研修を行いました。特に、活動報告を行った白石地区からは100名を超える参加があり、見守り活動に取り組む白石地域のパワーを感じました。

最初に、札幌市社会福祉協議会(略・社協)地域活動部の佐藤和人氏による

基調講演「見守り世帯を円滑に把握するために」が行われました。札幌市から提供され、白石区社協から年1回各地区社







右が白石地区社協会長佐藤昌幸氏

協に配布される「65 歳以上世帯名簿」の取り扱いが、従来ともすれば「個人情報保護法」や「札幌市個人情報保護条例」への過度の気遣いや、難しい問題から目をそらす免罪符のようにみられてきた嫌いがある。地域における孤立死など不幸な事例を防ぐために、慎重で適切な配慮の上で、より積極的な利用を進めて欲しいとのお話でした。

続いて、「見守り活動の実践報告」が白石地区社協会長の佐藤昌幸氏から、白石地域全体の取り組みと、特に単位町内会

である「共栄第二町内会」での福祉推進委員会の取り組みについて話されました。

この町内会での活動の特徴は、役員と班長の全員が見守りメンバー協力員であり、最初は民生委員との同行訪問で始めるけれども、対象者との信頼関係が築けたときには単独でも行っていること。訪問を拒否された場合は、無理せず新聞やカーテンの状態などで観察するとか、近所の方にも協力してもらって安否を確認していることなどでした。これらの手法は私たち菊水でも大いに参考になることだと思います。



## 介護予防調整会議開催

3月1日(木)午前10時から「介護予防センター菊水」主催による今年度の標記会議が開催されました。地区社協、福まち、民生・児童委員、包括支援センター、サロン・チャオ、白石区保健部、まちづくりセンター、白石区社協からそれぞれ関係者が参加しました。

「介護予防センター」とは、介護保険法によっ

て設けられた「包括支援センター」の機能が、隅々まで行き届くようにと、札幌市が特別に設けた制度で、介護の専門機関に委託して行っています。菊水地区では勤医協札幌病院が受託して、「すこやか倶楽部」、「認知症予防教室」、「転倒予防教室」などをはじめ、相談事業などを行っています。

この会議の趣旨は、「介護予防の普及・啓発」と「要介護状態になる恐れのある高齢者の早期発見」を目的に、地域



の関係団体などと話し合う事にあります。

最初に、介護予防センターから昨年度の活動状況の説明があり、続いて、白石区社協の佐藤次長から「地域活動における連携」について話があった後、地域連携の諸問題について話し合いが行われました。「マンションが多く町内会活動が円滑に行われないこと」、「民生委員活動に町内会が協力的でないこと」などの、ネガティブな意見しか聞かれなかったことが残念でした。地域には、それらを前提にしたうえで、前向きな手法をひねり出す責任があるのではないのでしょうか。





# サロン活動交流会開催

3月12日(月)午後1時30分より白石区民センター3階区民ホールにおいて、「白石区ふれあい・いきいきサロン活動交流会」が白石区社協主催で開催され、白石区サロン活動登録団体関係者や地区社協・福まち関係者約50人が参加しました。



この交流会は、サロン活動関係者が一堂に集まり、情報交換や交流などの機会を通じて、サロン

活動の活性化とより一層の普及を図るため、年1回実施しているものです。

最初に**東札幌地区「サロンにここ」代表小田島梶子さん**から、自分たちのサロン活動について発表がありました。公団住宅の集会室を利用した活動で、「参加者全員が主役」というコンセプトで運営しているとの報告がありました。

続いてサロン活動の技術向上を図るため、「ミニサロン」を体験しまし

た。**札幌の打楽器奏者大垣内さん**をお招きして「手作り楽器で音楽を奏でてみよう」のご指導を受けました。グラフ用紙を丸めて



大小2本の筒を作り、膝を叩いて「故郷」を歌いました。次にダンボールで小太鼓もどきの楽器を作り、ラテンのリズムを叩

きました。最後に小型の屑籠の中に紐を通しサンバの楽器を作り演奏しました。身近な日用品でリズムを奏でて、歌を歌う楽しさを教えられ、自分たちのサロンで活用できると皆さん喜んでいました。



## 孤立死を悼む

東札幌で障害者を抱えた姉妹の孤立死がありました。続いて東京でも夫の介護をしていた老妻が死亡し、続いてその夫も亡くなって発見されるという、痛ましいニュースが流れました。

最近、あちこちで起こっているこのようなセルフ・ネグレクト(見守りなどの世話や介護を拒否すること)は、まことに痛ましい限りです。都会における人間関係の希薄化を示すバロメーターであり、地域社会がばらばらに壊れている証なのです。

昔から、お上や他人の世話になりたくないという自尊心や自立意識が、社会生活を送る規範として一定の世代に尊重されてきました。個人の問題としては認められることでありますが、介護を必要とする痴呆高齢者や障害者が道連れとなる昨今の事態は、これとは別の見逃すことのできない社会問題です。

何故このようなことが起こるのでしょう。東札幌の姉妹の場合は、知的障害を持った妹を介護してい

た姉が、施設での生活を嫌がる妹のために一緒に生活する途を選んだことから始まります。そのことにより、地域に不慣れで、迷子になるとか他人に迷惑をかけてしまう妹に、自分が居ないときは独りで外に出てはいけないというルールを課したのです。

私たちがのように普段から知的障害者と接していると、彼らは外見は確かに近寄りがたくとも、本当にとっても素直で純粹であることを痛感させられます。今回の場合、それが裏目に出てしまい、姉との約束を守った結果が悲劇を生んでしまいました。

携帯電話に111という数字が印字されて残ったことは、おそらく彼女が110番に助けを求めようとしたことだろうと推測できます。「助けて!」と必死に救いを求めた彼女は、それでも鍵を開けて表に出なかったのです。寒かったろう、ひもじかったろう、心細かったらうに、頑なまでも姉の言いつけを守った幼児のような彼女のことを思うと、本当に痛ましい限りです。

(次ページに続く)



**この問題は、知的障害者の問題だけでなく、私たちの側の問題でもあります。**

知的障害者は、年齢相応の知的な能力がなく、深く考えることが苦手で、そのため社会に対応できないのです。また、知的障害者は、脳に様々な原因不明の障害が生じていて、耳をふさいで歩いたり、つぶやいていたり、健全な人から見れば理解しづらく「怖い」という先入観がどうしても付きまとうのは仕方がないことかもしれませんが、「**障害のある、助けを必要とする人たち**」であるということを忘れないことが重要です。

何も彼らのことを知らずに傍観していると、大声をあげたり、なんとも理解しにくい行動をとっているとしか見えるかもしれませんが、そういう行動には必ず理由があります。大抵の問題行動は、自分で処理しきれない困難に直面している不安からくる行動であるということを、覚えておいて下さい。

人間には、知・情・意の三つの機能がバランスよく備わっていますが、知的に障害のある人たちには最初の「知恵」が少し欠けているのです。しかし、「感情」は、たとえば、ごく普通の道端に咲いている花を素直にキレイと口にしたり、空の星に見入ったりしますし、嫌いなものは嫌い、好きなものは好きと、「意志」ははっきり示すことができます。知的障害とは知・情・意のアンバランスから生まれる障害だともいえます。

市では、今回の東札幌の事件を受けて、施設などでの支援を受けていない知的障害者にアンケートで近況を調査しています。そのうち民生委員や地域の福まち推進委員会などに、高齢者と同じような見守り活動の勧めがあることだろうと思います。

その前提として、支援を行う地域住民自身が、知的障害とは何か、どんな支援を行えばいいのかを、事前に学習しておく必要があります。

(社会福祉法人 札幌会副理事長 枝元 政肇)

## 福まち研修会開催

3月23日(金)午後1時より菊水地区会館において

平成23年度第2回目の福まち研修会を開催しました。民生委員を始め福まち関係者が多数の参加し、札幌市社会福祉協議会の中路康夫企画調整担当課長のお話をお聴きしました。

お話しのテーマは「だれもが孤立せずにお互いに支えあうやさしい街づくりの実現に向けて」で、最近札幌市を含めた全国で孤立死が起こっている現実を踏まえ、誰もが安心して住み続けることのできる地域づ



くりの必要性を改めて強調されました。

このため、札幌市社会福祉協議会では札幌市と協議を重ねた結果、平成24年度から29年度までの「さっぽろ市民福祉活動計画」を策定しました。平成5年に創られた第一次計画の第六次改訂版になります。

この計画の基本目標は、第一に「市民がお互いに支えあう活動の推進」、第二に「福祉的な支援を必要とする方々を支える活動の推進」、そして第三に「地域の社会資源との連携・協働によるネットワークの推進」です。

この新計画での新たな取組みは、「地域福祉活動座談会の実施」、「見守り・訪問活動の強化」、

「地域福まち拠点の活性化」などが挙げられています。これらに各地域の「福まち」が、今後どう取り組むかが試されています。

### 編集後記

東日本大震災から1年がたちました。この災害を通じて、生きていくには人と人の絆がいかに大切かを痛いほど感じさせられました。東札幌での姉妹の痛ましい事故は、私たちに、もう一度地域における「絆」のあり方を、考え直すよう迫っているのではないのでしょうか。

枝元編集員

